

最優秀賞 106

暑夜

山梨県 大節 渡邊久萬吉

暑夜

驕陽赫赫燎長空

きようよう かくかく ちようくう や
驕陽 赫赫 長空を燎き

夜尚炎蒸似甌中

よる な えんじよう とうちゆう に
夜尚お炎蒸 甌中に似たり

拭汗卷簾閑獨待

あせ ぬぐ すだれ ま しず ひと ま
汗を拭い簾を卷き閑かに独り待つも

天河不送一微風

てんが おく いちびふう
天河送らず 一微風

優秀賞 0036

東京都 紅杏 安食敏子

舟中曉望

しゅうちゅう あかつき のぞ
舟中 曉に望む

釣絲倦處晚風輕

ちようしう ところ ばんふう かる
釣絲倦む 処 晚風輕し

舟艇任流秋氣清

しゅうてい なが まか しゅうききよ
舟艇流れに任せれば 秋氣清し

一夜假眠蘆葦裏

いちやたと ねむ ろい うち
一夜仮い眠るも 蘆葦の裏

珠光萬顆曉晶晶

しゅこう ばんか あかつき しようしよう
珠光万顆 曉に晶晶たり

優秀賞 0049

長野県 芒人 塩澤一保

老農夫識字勞悴

ろうのう ふ じ し ろうすい
老農夫 字を識りて 勞悴す

人生九十苦辛多

じんせい きゅうじゅう くしん おお
人生九十 苦辛多し

識字爲詩如老何

じ し し つく おい いかん
字を識り 詩を為り 老を如何せん

晝把鋤犁夜燈火

ひる じより と よる とうか
晝は鋤犁を把り 夜は灯火

晴天懇看熟秋禾

せいてん ねんごろ み しゅうか じゆく
晴天懇に 看る 秋禾熟するを

優秀賞0016

長野県 清山 寺島芳永

越佐海峽舟行

越佐海峽舟行

一蹴驚波坐放舟

一たび驚波を蹴つて放舟に坐せば

洋洋滄海櫓聲柔

洋洋たる滄海 櫓声柔らかなり

遐看島嶼詩中景

遐かに看る島嶼 詩中の景

忽聽風謠是佐州

忽ち聴く風謠 是れ佐州

優秀賞339

兵庫県 沙風 前川 武

玉門關偶成

玉門關偶成

風吹戈壁舞黃沙

風は戈壁を吹いて黃沙舞い

雪擁崑崙飄素花

雪は崑崙を擁して素花飄える

戎馬隊商何處去

戎馬隊商 何処に去りしや

玉門關寂杳胡笳

玉門關寂として胡笳杳かなり

優秀賞0083

大分県 八峯 吉崎正基

梅雨偶晴

梅雨偶晴

隨雨殷雷轟半空

雨に隨う殷雷 半空に轟き

掃晴娘躍一狂風

掃晴娘は躍る 一狂風

牽裳持箒暗雲拂

裳を牽げ箒を持して暗雲を払い

忽看前山挂彩虹

忽ち看る前山 彩虹を挂くるを

佳作318

栃木県 思水 澤村茂樹

東京早稻田訪漱石山房

東京早稻田にて漱石山房を訪う

卜宅城西文運開

宅を城西に卜し文運開く

欲尋遺事獨徘徊

遺事を尋ねんと欲して独り徘徊す

綠陰濃處無人訪

綠陰濃き処 人の訪う無く

只見猫兒閑往來

只見る猫兒の閑に往來するを

佳作264

埼玉県 松香 吉見 翠

詩会

詩会

學來風雅十餘年

ふうが まな きた じゅうよねん
風雅を学び来りて十余年

相會聖堂塵事捐

せいどう あいかい じんじす
聖堂に相会し塵事捐つ

欲養吟魂順師處

ぎんこん やしな ほつ し したが ところ
吟魂を養わんと欲し師に順う處

詩情脈脈染華箋

しじょうみやくみやく かせん そ
詩情脈脈として華箋を染む

佳作283

東京都 聽雪 大木拓海

故里清明

故里清明

雨中笠屐且逍遙

うちゅうりゅうげき しばら しょうよう
雨中笠屐 且く逍遙す

村落家家插柳條

そんらく かか りゅうじょう さしはさ
村落家家 柳条を挿む

好向半堤南畔去

よ はんてい なんばん む さ
好し半堤の南畔に向かいて去らん

隔溪時有賣餚簫

たに へだ とき あめ う ふえあ
溪を隔てて時に餚を売るの簫有り

佳作284

東京都 聽雪 大木拓海

夏曉雜吟

夏曉雜吟

湖頭曉景信悠然

ことう ぎょうけい まこと ゆうぜん
湖頭の曉景 信に悠然たり

颯颯薰風吹水煙

さつさつ くんふう すいえん ふ
颯颯たる薰風 水煙を吹く

傍母鴨兒何所夢

はは そ おうじ なに ゆめ ところ
母に傍う鴨兒 何をか夢むる所ぞ

青荷蓋下尚安眠

せい か がいか な やす ねむ
青荷の蓋下 尚お安らかに眠る

佳作199

東京都 高橋純子

客中送春

客中 春を送る

夜來風雨洗芳菲

やらい ふうう ほうひ あら
夜來の風雨 芳菲を洗い

江上花流春自歸

かうじょう はな なが はる みずか かい
江上の花は流れて 春 自ら帰る

殘露濕衣津渡曉

ざんろ い うるお しんと あかつき
殘露 衣を湿す 津渡の 曉

新鵲掠月一聲飛

しんけん つき かす いっせいと
新鵲 月を掠めて 一声飛ぶ

佳作257

神奈川県

小嶋明紀子

旅館寒燈

旅館の寒燈

客中除夕與誰親

客中除夕誰とか親しまん

半夜窓前獨愴神

半夜窓前獨り神を愴ましむ

欲作家書多暗淚

家書を作らんと欲して暗淚多し

孤燈空照望鄉人

孤燈空しく照らす郷を望むの人

佳作104

愛知県 虚風

村瀬和彦

早春山居

早春山居

爐畔繙書萬古心

炉畔書を繙く萬古の心

青燈一穗伴孤吟

青燈一穗孤吟に伴う

夜闌獨聽蕭蕭雨

夜闌獨り聴く蕭蕭の雨

正是催花春水音

正に是れ花を催す春水の音

佳作105

愛知県 虚風

村瀬和彦

落葉

落葉

櫓柵爐頭酒獨傾

櫓柵炉頭酒独り傾く

孤燈寂寂到三更

孤燈寂寂三更に到る

只聞落葉敲蓬戶

只聞く落葉の蓬戸を敲くを

送盡年華是此聲

年華を送り尽くすは是れ此の聲

佳作323

大阪府 鳳鳴

山本武雄

秋夜偶題

秋夜偶題

風露滿庭秋漸深

風露庭に満ちて秋漸く深し

蛩聲寂寂夜沈沈

蛩聲寂寂夜沈沈

紙窓樹影如龍臥

紙窓の樹影龍臥の如し

開戸松枝月漏金

戸を開けば松枝に月金を漏らす

佳作 159

熊本県 中野道隆

消夏聽「具多芬月光」

消夏「具多芬月光」を聴く

涼風纔起竹林邊

涼風纔かに起る竹林の辺

古塔清閑落日圓

古塔清閑として落日円かなり

一曲彈絃何處奏

一曲の彈絃何処より奏す

月光旋律極幽玄

月光の旋律幽玄を極む

入選 214

群馬県 芳泉 小井土幾代

磯部温泉愛妻橋

磯部温泉愛妻橋

春雨絲絲柳帶煙

春雨糸糸柳煙を帯び

紅梅淡淡映清漣

紅梅淡淡清漣に映ず

愛妻橋上溫泉客

愛妻橋上温泉の客

一傘相擎笑語圓

一傘相擎げて笑語円かなり

入選 203

群馬県 静舟 高橋生美子

晚秋卽事

晚秋卽時

荒籬霜後菊花殘

荒籬霜後菊花残す

怕聽階前蟲語寒

聴くを怕る階前虫語の寒さを

楓葉紛飛風一陣

楓葉紛飛風一陣

拂雲眉月在檐端

雲を払って眉月檐端に在り

入選 251

群馬県 芳翠 山本美代子

餞春

餞春

經雨柴門春欲殘

雨を経て柴門春残せんと欲す

疎簾搖動怯輕寒

疎簾揺動して輕寒を怯る

流鶯不語懷人夕

流鶯語らず人を懷う夕べ

一片詞愁寄牡丹

一片の詞愁牡丹に寄す

入選101

埼玉県 宇野次郎

立秋即事

立秋即事
りつしゅうそくじ

空庭氣爽雨初収

空庭氣爽やかに雨初めて収まる
くうていきさわ あめはじ おさ

籬畔蟲鳴夜色幽

籬畔に虫鳴き夜色幽なり
りはん むしな やしよくゆう

獨坐小齋燈火下

独り坐す小齋灯火の下
ひと ざ しょうさいとうか もと

讀書三昧散人秋

讀書三昧 散人の秋
どくしょさんまい さんじん あき

入選230

千葉県 落山 清水義孝

題梅

梅に題す
うめ だい

嫋嫋東風繞小廬

嫋嫋たる東風 小廬を繞り
じょうじょう とうふう しょうろ めぐ

兩三花發報春初

两三の花発いて春を報ずるの初め
りようさん はなひら はる ほう はじ

遙懷晉帝好文謂

遙に懷う 晉帝好文の謂れ
はるか おも していこうぶん いわ

一日聞香閑讀書

一日香を聞いて閑かに書を読まん
いちにちこう き しず しょ よ

入選0071

千葉県 観水 田沼裕樹

聖堂探鳥

聖堂に鳥を探ぬ
せいどう とり たず

影不可看聲可聽

影は見るべからざるも声は聴くべし
かげ み こえ き

潛尋睨睨入幽庭

潜かに睨睨たるを尋ねて幽庭に入る
ひそ けんかん たず ゆうてい い

仰瞻夫子春風裏

仰いで夫子を瞻る春風の裏
あお ふうし み しゅんぶう うち

一鳥在肩雙眼青

一鳥肩に在り双眼青し
いつちようかた あ そうがんあお

入選155

神奈川県 香流 牛山知彦

湖上望嶽

湖上望嶽
こじょうぼう かく

客中又訪舊山莊

客中又旧山莊を訪れば
かくちゅうまたきゆうさんそう おとず

窗近清湖六月涼

窓は清湖に近く六月涼し
まど せいこ ちか ろくがつすず

仰首靈峰在天上

首を仰げば靈峰天上に在り
くび あお れいほうてんじょう あ

雄姿倒影水中央

雄姿影を倒にして水中央
ゆうしかげ さかしま みずちゅうおう

入選305

神奈川県 松田奈月

亡友挽歌

亡き友への挽歌

青山獨歩悼君行

青山独り歩いて君を悼みて行けば

一片白雲天更清

一片の白雲 天更に清し

墳樹綠陰埋骨處

墳樹の緑陰 骨を埋むる處

香風蝶舞百花明

香風に蝶舞いて百花明らかなり

入選335

神奈川県 亮泉 横溝喜久男

秋日閑遊

秋日閑遊

扶筇來賽寺門頭

筇に扶り來賽 寺門の頭

映發靈葩赤蒜稠

映發の靈葩 赤蒜稠し

風冷夕曛如惜刻

風冷やかに夕曛刻を惜しむ如く

秋蛸切切誘閑愁

秋蛸切切 閑愁に誘う

入選112

新潟県 荻城 渡辺 敦

食用菊圃

食用菊圃

農叟不知陶令名

農叟は知らず陶令の名

重陽南畝菊千莖

重陽の南畝 菊千莖

黃紅楚楚誇佳節

黃紅楚楚として佳節を誇るも

總被別人飡玉英

総て別人に玉英を飡わる

入選290

福井県 吉岡正道

足羽川逍遙

足羽川逍遙

光風歴歴綠堤頭

光風歴歴 緑堤の頭

橋畔相追群鷺游

橋畔相追う群鷺遊ぶ

慘憺戰災全若夢

慘憺たる戦災 全て夢の若し

清江依舊抱田流

清江旧に依り田を抱きて流る

入選0021

長野県 野杏 千葉 隆

登象山

象山に登る

鳴鶯七月尚啾啾

鳴鶯 七月 尚啾啾

更見殘花葉底埋

更に見る 殘花の葉底に埋むを

獨上山亭啜新茗

獨り山亭に上りて新茗を啜れば

松風如水滌塵懷

松風水の如く 塵懷を滌う

入選0043

鳥取県 濱崎厚子

題學童登校

學童の登校に題す

霽朝村巷學童連

霽朝の村巷 學童連なり

多彩背囊輝兩肩

多彩の背囊 両肩に輝く

停步戲踏行潦水

歩を停めて戯れに踏む 行潦の水

嬉聲忽上達青天

嬉聲忽ち上つて青天に達す

入選0044

鳥取県 濱崎厚子

初夏田園

初夏田園

陽光反景水盈田

陽光反景す 水盈つるの田

習習薰風作細漣

習習たる薰風 細漣を作す

應看農人插秧業

応に看るべし 農人の插秧の業

整然嫩色兆豐年

整然たる嫩色 豐年を兆すを

入選0040

鳥取県 前田三枝子

春日郊行

春日郊行

長堤爛漫菜花開

長堤漫として菜花開き

歩歩香風吹面來

歩歩香風 面を吹いて來たる

時聽啾啾春鳥轉

時に聴く啾啾として春鳥轉るを

黄筴一徑作詩媒

黄筴一徑 詩媒を作す

徳島県 松毬 姫田照子

しゅうじつこうこう
秋日郊行

せいこうあめは
西郊雨霽れて
やじょうきよ
野情清く

いちじつし たず
一日詩を尋ねて 杖履軽し
じょうりかろ

赤卒高低 秋遠近

不才歩を尽くして句成り難し

徳島県
松岳
藤永一輝

秋しゅう日じつ偶ぐう感かん

きんぷう　れいじつ　せいちゆう　のぞ
金風の麗日　西疇を望めば

かえいりり
禾穎離離たり
ばんけい
万頃の秋
あき

粒粒の苦辛 誰有りてか識る

かでん
そんな
かんしゆなが

夏田の村叟汗珠流れしを

長崎県 中尾伸雄

看^{かん}花^か出^{しゅつ}遊^{ゆう}

晴天一路 朋と共に遊ぶ
 せいてんいちろともともあそぶ

万ばん朶だの桜雲おううん 両眸りようぼうに燦さんたり

われ わす こうぎん
我を忘れ高吟し花下に酔えば
か か よ

さんしゅん こうらく ま なに もと
三春の行楽 復た何をか求めん

熊本県 萩園 古閑 馨

天草の洞門

碧空の鴟鳥 風を趁うて 翻り
へきくう おうちよう ふう お ひるがえ

いっぺん けいしゅう どうもん いた
一片の軽舟 洞門に到る

ぜつぺき だんがい てんみず ぜつ
絶壁の断崖 天水に接し

しぜん　　ぞうか　　じんぱん　　あら
自然の造化　塵煩を洗う

入選347

熊本県 友希 寺嶋文代

流螢

流螢

水邊楊柳宿流螢

水辺の楊柳 流螢を宿し

日落溪間忽晦冥

日落ち溪間 忽ち晦冥

三五有人殊不愕

三五人有るも殊に愕かず

亂飛明滅似星青

亂飛明滅 星に似て青し

若年奨励賞135

新潟県 林 遥來（17歳）

偶成

偶成

破屋閑庭綠四圍

破屋の閑庭 緑四を囲む

少年懶出鎖柴扉

少年出るに 懶く柴扉を鎖ざす

無聊雨後歩幽徑

無聊の雨後 幽徑を歩めば

滿院松風氣力微

滿院の松風 氣力微なり

若年奨励賞139

新潟県 諸橋 維（17歳）

苦熱

苦熱

酷暑雷聲雨後虹

酷暑の雷聲 雨後の虹

風鈴枕上待松風

風鈴は枕上 松風を待つ

門無車馬堂前立

門に車馬無く堂前に立てば

深夜乾坤月半弓

深夜の乾坤 月半弓

若年奨励賞144

新潟県 古谷泰人（17歳）

新型コロナウイルス

新型コロナウイルス

瘦骨精神空自嗟

瘦骨の精神 空しく自ら嗟く

蘇生如夢一杯茶

蘇生夢の如く一杯の茶

新型冠状閑纔在

新型冠状 閑纔かに在り

夜半病床窗外花

夜半の病床 窓外の花

若年奨励賞 146

新潟県

本間大雅（16歳）

梅霖

梅霖
ばいりん

七月梅霖晝閉門

しちがつ ばいりん ひるもん と
七月の梅霖 昼門を閉ざす

輕雷處處水邊村

けいらい しよしよ みずべ むら
輕雷 処処 水辺の村

放晴細細風鈴語

はな はな さいさいふうりんかた
晴れを放つこと細細風鈴語る

日暮庭中夏木繁

ひぐれ ていちゆう かぼくしげ
日暮の庭中 夏木繁る

若年奨励賞 148

新潟県

石川奏慧（16歳）

友至

友至る
ともいた

千載無塵歲月移

せんさいちりな さいげつうつ
千載塵無く歲月移り

窮途緩歩共相思

みちきわ ほ ゆる とも あいおも
途窮まり歩を緩め共に相思う

佳人暗淚清風下

かじん あんるい せいふう もと
佳人の暗淚 清風の下

過隙生涯不可悲

かげき しょうがいか
過隙の生涯悲しむべからず

高壽奨励賞 109

群馬県 優水 片倉順子（84歳）

福壽草

福壽草
ふくじゅそう

凌雪萌芽先報春

ゆき しの ほうが ま はる ほう
雪を凌いで萌芽 先ず春を報ず

陽光射處數花新

ようこうい ところ すう かあら
陽光射る処 数花新たなり

地上金葩明秀色

ちじよう きんぱめいしゆう いろ
地上の金葩明秀の色

恰如招福守清貧

あたか ふく まね ごと せいひん まも
恰も福を招くが如く清貧を守る

高壽奨励賞 315

高知県 容伸 池幡新也（82歳）

除夕

除夕
じよせき

青雲路遠歲將終

せいうんみちとお としまさ お
青雲路遠く歳將に終わらんとす

詩債成山韻事空

しさいやま な いんじむな
詩債山を成し韻事空し

默坐龕前眠不就

がんぜん もくざ ねむ な
龕前に默坐して眠り就らず

鐘聲百人待春風

しょうせいひやくはち しゅんふう ま
鐘声百人 春風を待つ

高壽奨励賞 113

福岡県

有馬久實（92歳）

好文木

好文木
こうぶんぼく

生苔老樹草堂邊

苔を生ぜし老樹 草堂の辺り
こけ しゅう ろうじゅ そうどう あた

留客庭梅一朵妍

客を留む庭梅 一朵妍なり
かく とど ていばい いちだけん

時聽早鶯閑日月

時に聴く早鶯 閑なり日月
とき き そうおう のどか にちげつ

詩成想晋好文縁

詩成りて晋を想う好文の縁
しな しん おも こうぶん えん

高壽奨励賞 172

佐賀県

桜敢 副島陽子（90歳）

梅雨排悶

梅雨排悶
ばいうはいもん

梅霖連日昼猶昏

梅霖連日 昼猶昏し
ばいりん れんじつ ひるなおから

排悶来尋池畔園

悶を排さんと来り尋ぬ池畔の園
もん はい きた たず ちはん その

紫白菖蒲雨中凜

紫白の菖蒲 雨中に凜たり
しはく しやうぶ うちゅう りん

淡粧濃抹恍忘言

淡粧 濃抹 恍として言を忘る
たんしやう のうまつ こう ことば わす

高壽奨励賞 265

熊本県

有栄 増永榮（86歳）

看櫻

桜を看る
さくら み

啼鳥處處艷陽春

啼鳥処処 艷陽の春
ていちょうしよしよ えんよう はる

萬菜櫻雲城趾新

万菜の桜雲 城趾新なり
ばんだ おううん じょうしあら

片片飛紅詩景好

片片たる飛紅 詩景好し
へんぺん ひこう しけいよ

佳人環坐醉芳醇

佳人環坐して芳醇に酔う
かじんかんざ ほうじゅん よ